

第 36 回図書館建築研修会(2014 年度)
明日の図書館 その建築について考える

2014 年 11 月
公益社団法人 日本図書館協会

はじめに

節目となる第100回の全国図書館大会が、例年を上回る規模で開催されるのに合わせ、日本図書館協会施設委員会主催の第36回建築研修会を開催することとしました。また、大会テーマ「図書館文化を明日の力に」に符合させるべく、研修テーマを「明日の図書館その建築について考える」としました。

デジタル情報化の進展により図書館を取り巻く環境は急速に変化しています。1980年に日本語訳が刊行された『第三の波』で著者アルビン・トフラーは人類の文明を大きく変化させる情報革命が、農業革命、産業革命に次ぐ第三の波として到来するとしました。実際に、インターネットに代表される情報流通のデジタル化はその後の30年余りの間に、人間活動のさまざまな面で大きくかつ大幅な変革をもたらしてきています。情報流通のメディアである活字印刷物を存立基盤としてきた図書館も大きな変容が必要といえます。しかし、その変化は一時喧伝された物理的図書館の不要論にくみするものではなく、逆に、成人男性利用者の増加であるとか「知の広場」「場としての図書館」論の活発化などにみられるように、実態を有する図書館とその建築の必要性、重要性は高まっているとの考え方方が主流になってきているといえます。なによりも、資料と職員とが日々の暮らしに伴う折々の課題解決を支援する、人々の明日の力になる生活支援センターとしての図書館は、住民の近くに設置され気軽に訪れる事のできる場でなければなりません。このような認識を社会に普遍化させる力になっているのが、近年における図書館建築の質の向上があります。そして、それを支えてきたのが図書館の意義や機能、サービスの本質を研究し、その成果を建築空間として創造している優れた建築設計者の存在です。

そこで本研修会では、最先端の研究者お二人に、明日の図書館の方向性を示していただいた上で、図書館建築に深く関わり活躍を続けておられる建築家5人に、まず図書館を設計する際の「こだわり」を語っていただき、次に、座談会形式で図書館建築の可能性、難しさとおもしろさ、これから図書館建築像について語り合っていただきます。

さて、日本図書館協会施設委員会は、各地の施設整備・建設計画に関与するとともに、第1回「良い図書館をいかにして建設するか」（1980年6月）以来図書館建築研修会を継続的に開催、1984年から設けられた図書館協会建築賞の選考に当るなど、一貫して我が国の図書館建築の質の向上にかかる活動を行っておりました。第100回全国図書館大会を機会に、本委員会に対する一層のご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後に、ご多忙にもかかわらず執筆・登壇をお引き受けいただきました皆様と、創立100周年記念事業として協賛いただいたキハラ株式会社に御礼申し上げます。

2014年11月

植松 貞夫

公益社団法人 日本国書館協会 施設委員会委員長

目 次

はじめに.....	植松貞夫	3
1. 基調講演		
なぜ北欧の公共図書館ではおしゃべりが解禁になったのか - 対話とエンパワーメント を醸成する 21 世紀の北欧公共図書館.....	吉田右子	7
はじめに		
1. 20 世紀北欧公共図書館の発展		
2. 情報と文化へのアクセスの拡大からみる北欧公共図書館サービス		
3. 21 世紀の北欧公共図書館モデル		
4. 考察		
おわりに		
2. 基調講演		
利用者調査にみる利用者像と利用行動の変化 - 公共図書館と大学図書館での調査を 通じて.....	中井孝幸	19
はじめに		
1. 地方都市における図書館利用		
2. 図書館に求められる機能と「場」としての役割		
3. 図書館における居場所形成		
4. 相対的な図書館の使い分け利用		
5. 大学図書館に対する図書館像		
6. 図書館の多機能化とゆるやかな機能連携		
まとめと今後の課題		
3. 5 人の建築家が語る「私の図書館設計作法」		
寺田芳朗（寺田大塚小林計画同人）		35
鳴海雅人（佐藤総合計画）		36
藤原孝一（藤原建築アトリエ）		42
益子一彦（三上建築事務所）		48
柳瀬寛夫（岡田新一設計事務所）		54
4. 『付』 私の図書館建築作法 鬼頭 梓.....		
		67

第百回図書館大会 第22分科会 第36回建築研修会

5人の建築家が語る「私の図書館建築作法」

寺田芳朗 寺田大塚小林計画同人 代表

1-1 わたしの経歴

横浜生まれ。図書館建築計画学を横国大で佐藤仁教授に学ぶ。和設計事務所在籍中に大磯町立図書館の設計と監理を担当。山手総合計画研究所設立に参画して、苅田町立、伊万里市民、小川町立、君津市立中央、愛知川町立などの図書館を担当する。1999年に寺田大塚小林計画同人設立。小川町図書館、君津市図書館設計の継続、諫早市たらみ、南相馬市立図書館設計、竹田市図書館基本構想を担当する。建設コンサルタント(都市及び地方計画)・JIA登録建築家・日図協会員・図書館文化史研究会会員。

1-2 図書館設計の経歴

大磯町立図書館、苅田町立図書館、伊万里市民図書館、名護市立図書館基本設計、小川町立図書館、君津市立中央図書館、愛知川町立図書館、多良見町立図書館、南相馬市立中央図書館、

1-3 図書館建築の先達から渡されたバトン

佐藤仁先生から；図書館に一日居て眺めて図書館を学べ。図書館は民主主義のかたちそのものなのだ。
菅原峻先生から；大切な図書館システム／計画プログラム。図書館員や市民と向き合って設計をせよ。
鬼頭梓先生から；名著作を読んで聴いて。市民への迎合と媚態、図書館建築空間の質、どう考えるか。

1-4 図書館と図書館建築にどう向き合おうとしているか

図書館建築計画を「もののデザイン」と「ことのデザイン」と意識して、とらえ直してみるとよい。植松貞夫先生の言葉が耳に響いている。新しく出会う図書館づくりの始まりに、「どうつくるのか」の前に「なぜつくるのか」を尋ねたり自問自答してもいる。私には墨守する建築作法がない証拠だろう。経験や知識に寄りかかると、流行からは、頑迷さだとのしられて不安にもなる。鬼頭先生の名文に、「図書館員も建築家も Profession と呼ばれる職業の部類に属している筈のものだ。」とあって、学びつづける専門職として互いに信頼し協働するプロセスに結果が出る、と設計作法を示してくれている。

そこで、「どんな図書館がつくりたいですか」と、建築環境と資料世界が重ね描きされた図を作り、話しのきっかけにテーブルに出してみることを重ねてきた。これを耕しながら、設計をすすめてきた。人と同じに本の居心地を考える。それぞれ主題の群の大きさ、つながりかた。これが建築の場の繋がりシーケンスとうまくかさなることを目指している。主導権決定権は図書館員側にある。そうして私たちは場を造ってお仕舞い。図書員は資料と場を長く育て続ける訳で、折々に連絡しては「その後」を教わることになる。そして「その後」を知る努力も「成長する図書館」の設計には大切に思われる。

この四半世紀、お手伝いした5つの図書館で、話しの種として作り、いまでも生きている配架図を見て頂こうと考えた。長く責任を負う図書館員と、図書館を愛する設計者が、図面をまん中に話し合う情景を想像してみてほしい。いまでは時代遅れの、図書館づくりの作法と言われるかもしれないが。

福岡県苅田町立図書館 建築と家具設計1988・設計監理1988～1990

苅田町立図書館は設計から26年、開館24年をむかえた。図書館建築を「場」としてどうしつらえるかをテーマに、内外環境をモザイクに組み合わせ「ひろば」を想像した。貸出レジコンビニストア型から、居心地型へと切り替えた。

- 開架室の構成での試みは、書架をデスクに平行に置き、賑やかな9門を奥に置く。当時は原則違反の踏み絵。本を平置きで見せ、棚板はd15cmを多用し驚かれた。
- 本館、BM、3分館の図書館システムに成長し、本館の収容冊数も大きく拡大している。(2012統計)
図書209,000冊(成人157,000、こども51,700)、AV3615。
(全町図書館システムの資料所蔵総数は312,000点。書庫は満杯)

※当時「町村図書館に書庫は要らない」が図書館界の方向性だった。

●児童蔵書構成

0調べもの	150冊	0総記	1,840冊	→ 7,443冊
1占い・宗教・神話	150冊	1哲学	815冊	→ 6,999冊
2歴史・地理	1,250冊	2歴史	2,377冊	→ 20,794冊
3世の中のしきみ	250冊	3社会科学	4,096冊	→ 21,776冊
4科学・生きもの	1,800冊	4自然科学	1,586冊	→ 12,732冊
5技術・工業	400冊	5技術工学	2,224冊	→ 19,141冊
6産業・乗りもの	200冊	6産業	673冊	→ 7,348冊
7芸術	850冊	7芸術美術	3,441冊	→ 26,575冊
8ことば	150冊	8言語	857冊	→ 4,701冊
9文学・物語	6,000冊	9文学	10,019冊	→ 84,778冊
E絵本	3,400冊	計画案の合計	60,000冊	
P紙芝居	400冊	2012年の蔵書	212,287冊	
0調べもの	15,000冊	2012年の蔵書	83,864冊	

●成人蔵書構成

●新書・文庫	文庫小説	4,500冊	→ 7,800冊
●参考図書	他文庫、新書	3,000冊	
●郷土資料	新刊1,200×0.8=960冊	→ 9,660冊	
●図書館研究	B57タイトル	2,000冊	
●全国電話帳	945冊		
●地図J-CODE、地図本			
●●青少年コーナー		3,000冊	
●AV資料			
●カセットテープ	900巻	→ 445巻	
●CD	1,200枚	→ 6,578枚	
●VHSテープ	200巻	→ 3,493巻	
●レコード(寄贈)	2,500枚	→ 190枚	
●DVD	0枚	→ 347枚	
●●新聞	15紙	→ 17紙	
●●雑誌	186冊	→ 300冊	→ 202誌

■データ

所在地：福岡県苅田町富久町
町の人口：約35,000人
敷地面積：7,629m²
延床面積：1,982m²(横層書庫含まず)
規模：地上1階(横層書庫あり)
開館：1990年5月
受賞：福岡県建築住宅文化賞グランプリ
日本建築学会作品選集入選
毎日地方自治大賞優秀賞
作品掲載誌：現代建築集成(図書館)メイド出版
建築設計資料43・図書館2
図書館建築22選 東海大学出版
SD別冊「本と人のための空間」

図書館基本計画：町図書室、助言：菅原峻

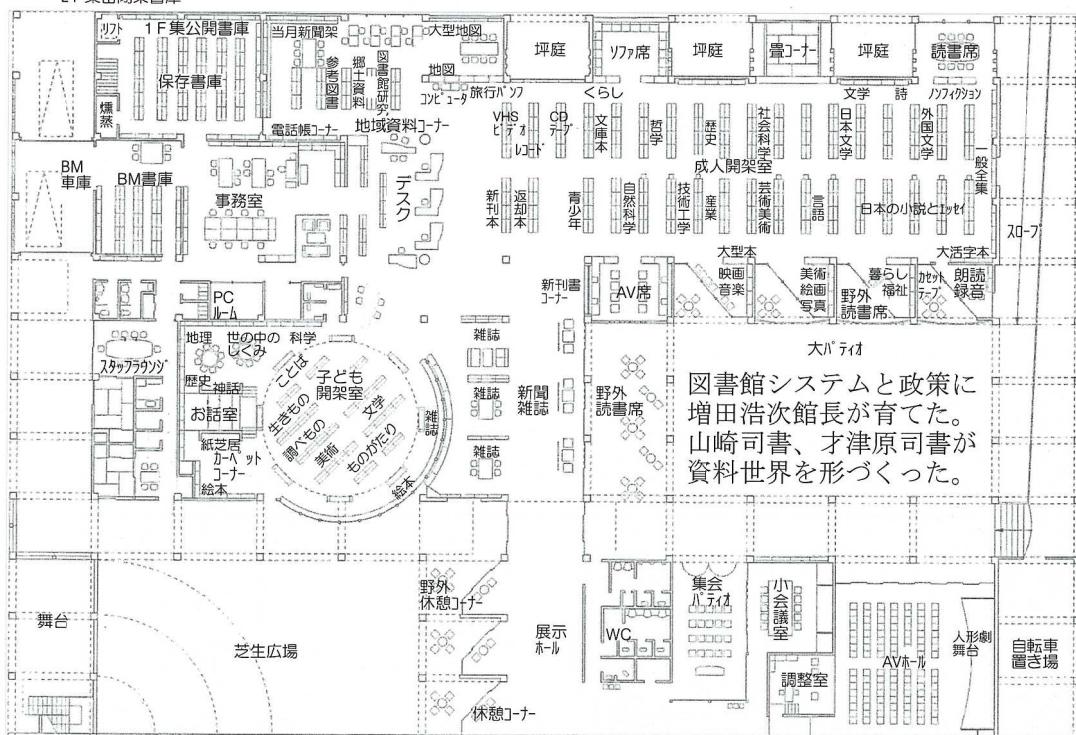
設計計：特命随契
基本・実施設計(1988年)
家具デザイン設計(1988年)
山手総合計画研究所在籍中
設計担当者 寺田 芳朗
設計監理(1988～1990年)
山手総合計画研究所在籍中
設計担当者 寺田 芳朗

■計画時収蔵能力 157,000冊+8,200冊

●開架全体：	90,000冊
成人開架：	60,000冊
地域行政/参考：	12,000冊
こども：	15,000冊
ティーピー：	3,000冊
●視聴覚・新聞雑誌：	8,200冊
●閉架書庫：	57,000冊
●アーカイバース：	10,000冊
●開架室読書席：	120席+野外30席

■2012蔵書冊数
307,309冊
312,002点

2F集密閉架書庫



図書館システムと政策に
増田浩次館長が育てた。
山崎司書、才津原司書が
資料世界を形づくった。

○24年間の貸し出し実績は、資料費減や専門職減+配置変化にともない盛衰がみられた。

貸出密度	登録率	人口
△1990開館	9.79冊/年.1人	43%
△1991年度	12.51冊/年.1人	50%
△1999年度	17.98冊/年.1人	75%
△2012年度	14.13冊/年.1人	60%
S=1/500	2012年 年間総貸出51万冊	予約リクエスト 22,300件/年

▼登録率の激動
1996年に70%台入り、2002年に82.6%を越え、
2009年まで82%台を保つ。翌年から60%台に急落。
現在まで貸出冊数とともに一進一退の状態が続く。
登録率のピークは2007年の86.6%。
貸出密度のピークは1999年の17.98冊/町民1人・年

佐賀県伊万里市民図書館 建築と家具設計1993・設計監理1994～1995

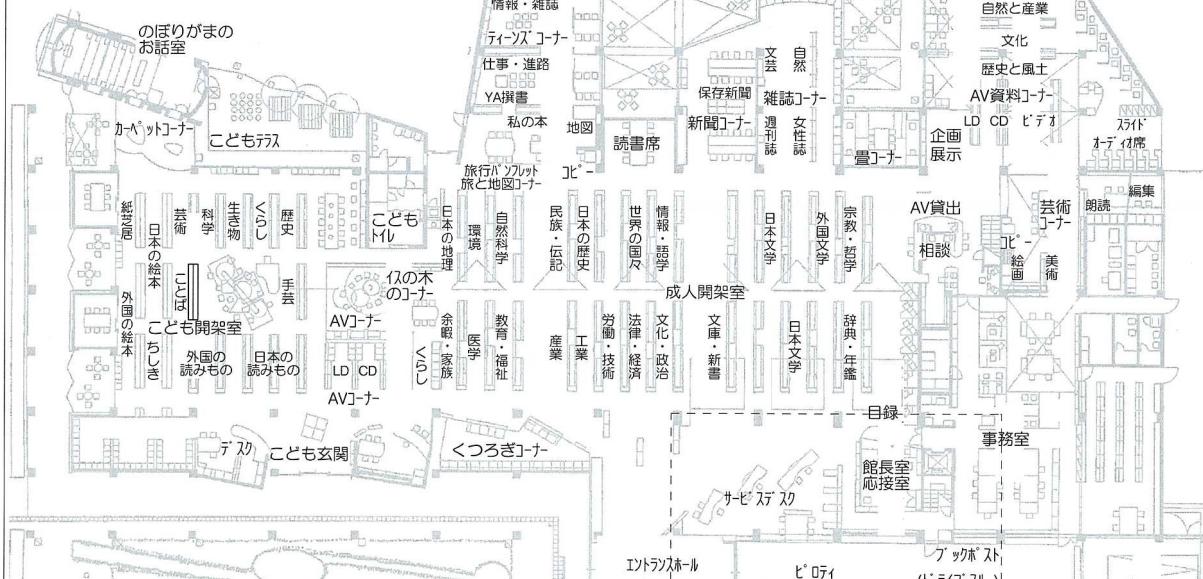
伊万里市民図書館は設計から21年、開館19年をむかえた。四角かL型ワンルームが標準的な図書館建築の環境を、中庭を抱えたフингルームで、部門別風にやや分節化して、各場のプロセッションの適正化としつらえの特化を提案した。

○開架室の構成での試みとして、可変型木製書架を開発し、資料展示表現を考えた。ティーズコーナー、BMコンテナート、公開書庫など、新しい場の提案が図書館利用を派生する「ことのデザイン」を考えていた。

○本館、BM2台、学校図書館連携など図書館システムが成長して、本館の収容冊数も拡大している。(2012統計)

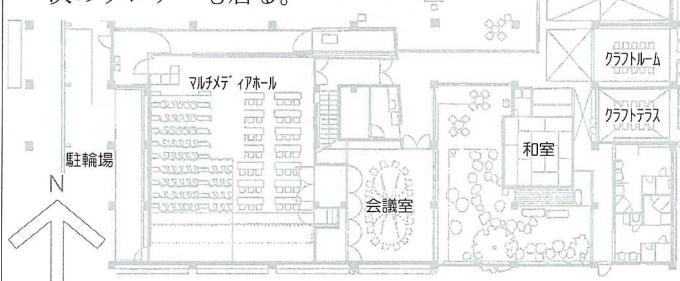
本館 340,000冊 BM 30,000(72サービスステーション)

開架合計 374,000冊 全館収蔵 480,000冊
貸出し総数515,000は5.7万人の地方都市として高成果だが、加えて年間27,973件のレファレンス実績は、次なる段階を感じさせる。



- 資料世界の構築議論では森田一雄館長がリードし、館長のバトンを引き継いだ犬塚司書や古瀬司書が、ディテールを創った。

棚を耕しつづける
次のランナーも居る。



■データ

所在地：佐賀県伊万里市立花町
市の人口：約61,000人
敷地面積：7,629m²
延床面積：4,374m²
規模：地上4階
竣工：1995年3月
開館：1995年7月
受賞：日図協図書館建築賞
公共建築優秀賞
毎日地方自治体賞
ふるさとの主張ふるさと賞

作品掲載誌：現代建築集成（図書館）時代出版
SD別冊「本と人のための空間」
建築画報269特集公共図書館建築
建築アーカイブ「これからの公共図書館 I」
図書館基本計画：菅原 峻

設計計画：プロホーラル（1992年）入選
基本設計（1993年）
実施設計
家具サイン設計（1993年）
設計監理（1994～1995年）
山手総合計画研究所在籍中
主任設計者 寺田 芳朗

■計画時の収蔵能力

486,000冊+15,000冊

- 開架全体：
・ 成人開架：213,000冊
（BM 9,100冊）
・ こども： 61,500冊
（BM 20,000冊）
・ 伊万里学： 24,500冊
・ ティーズ： 8,100冊
・ 大字活： 1,400冊
・ 視聴覚： 9,900冊
・雑誌： 22,000冊

■2012年度の利用

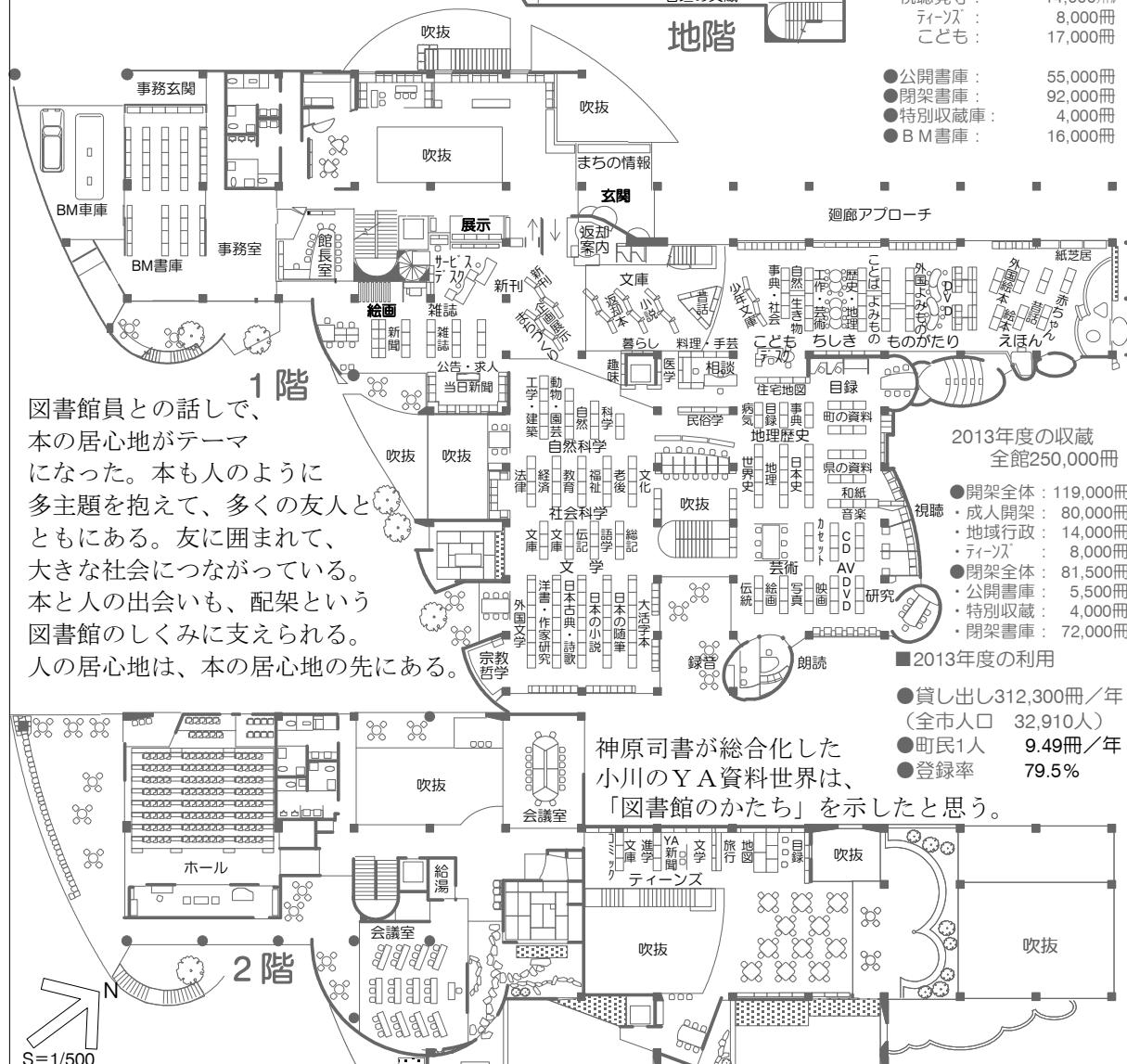
- 予約 9,081件／年
- レファレンス 17,382件／年
(ビーグルH20 27,973件／年)
- 貸し出し 515,000冊／年
(全市人口 57,000人)
- 市民1人 8.98冊／年
- 登録率 65.8%

埼玉県小川町立図書館 建築と家具設計1997～1998・設計監理1999～2000

小川町立図書館は設計から16年、開館13年をむかえた。小京都と呼ばれる古い街並みと難しい地型になじませ、B1から2階の3層に、図書館開架環境をどう分けてつなげるかを考えた。建築が縦に分節化されたとき、としょかんは対応できるのか。

○開架室の構成での試みは、フィンガープランで分節化しつつ、資料世界の奥行き感とつながりを工夫した。落ち着いた地下に公開書庫を吹き抜けでつなげた。

○本館とBMの図書館システムは成長し、登録79.5%、町民1人9.5冊/年と堅調の様子。(H24統計)人口3.3万人の町で蔵書250,000冊書庫は開館14年で満杯となった。



千葉県君津市立中央図書館 建築と家具設計1998～2000・設計監理2000～2002

君津市立中央図書館は設計から14年、開館11年をむかえた。

専門店群が大きなバザールの縁に集まつたような図書館を想像する。フレキシブルな大開架(NDC分類)と、主題コーナーに総合化された小コレクション群を、ラチス状に関係づけて配置構成する開架システムをはじめに提案した。

■施設概要

所在地：千葉県君津市久保

図書館基本計画：菅原 峻

設計計画：プロボーザル（1998年）入選

基本設計（1998～1999年）

総括責任者：寺田 芳朗

（山手総合計画研究所在籍中）

実施設計（1999～2000年）

契約元：山手総合計画研究所

統括下請：寺田大塚小林計画同人

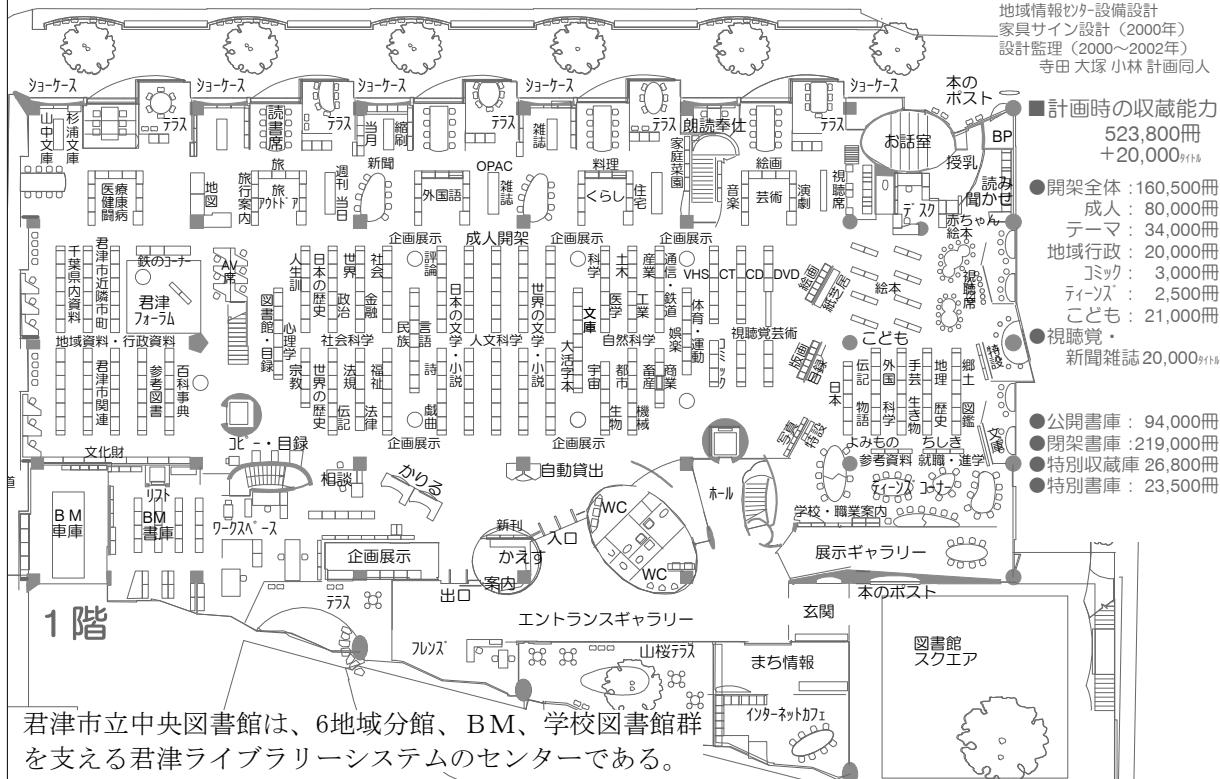
地域情報センター設備設計

家具サイン設計（2000年）

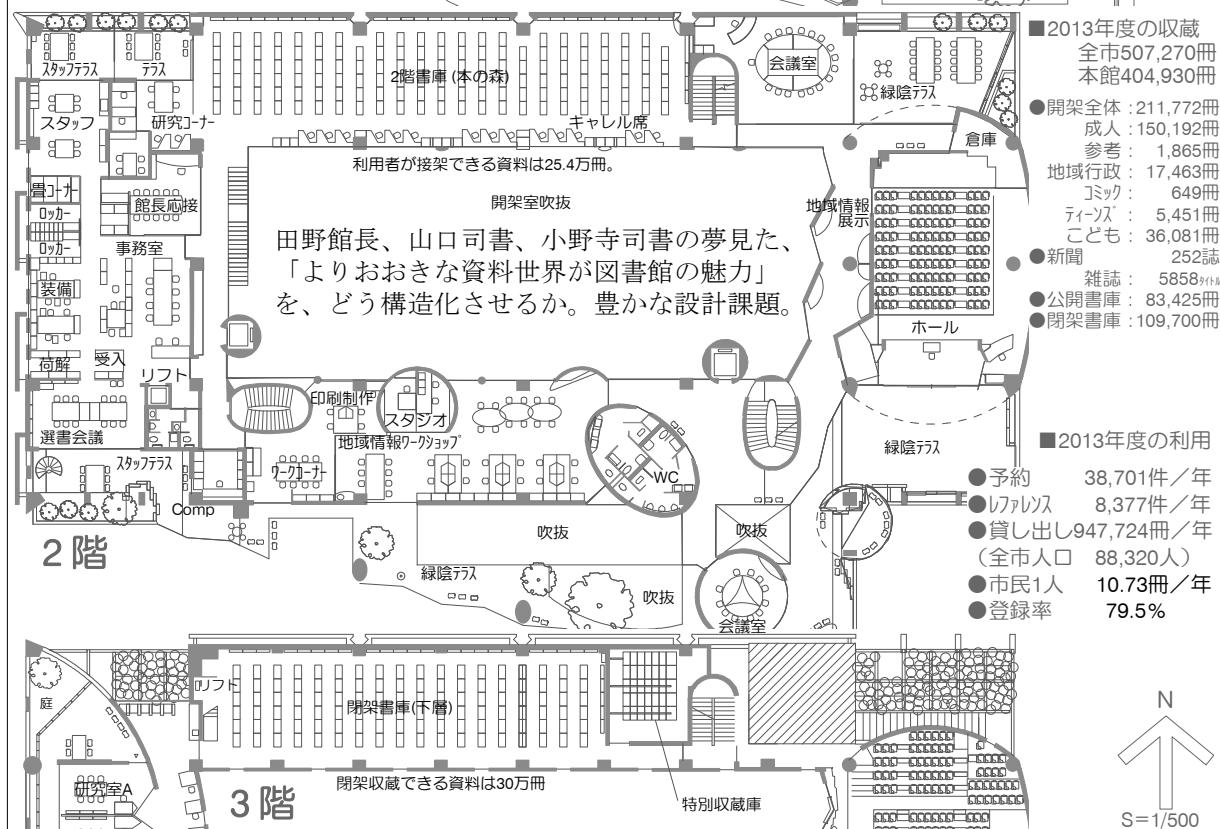
設計監理（2000～2002年）

寺田大塚 小林計画同人

受賞：千葉県建築文化奨励賞



君津市立中央図書館は、6地域分館、BM、学校図書館群を支える君津ライブラリーシステムのセンターである。



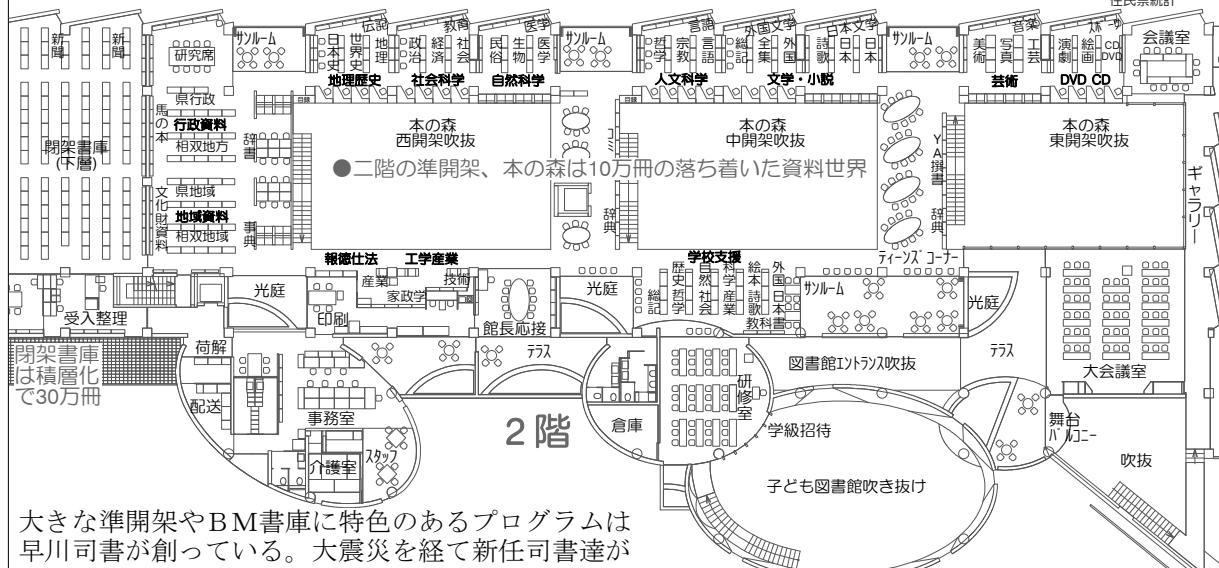
福島県南相馬市立中央図書館 建築と家具設計2005~2007・設計監理2008~2009

南相馬市立中央図書館は設計から7年、開館5年をむかえた。一階開架室は、自然・社会・人文・郷土・こどもを5群に分節化して建築環境に対応させて、それぞれの門に対応させて二階の公開書庫(準開架)10万冊を配架している。二階資料の不易性に対応させて、流行性の場である一階開架室の15万資料群とあわせて、市民は25万資料群に出会い、その奥行きに30万冊の閉架資料群が控えている。

他に替えがたい図書館の魅力は、本や情報の提供だけでなく、構造化された資料世界に囲まれ、回遊ブラウジングできることにある。開架室における資料世界表現の「形」(資料配置とつながり)と場のつながりを融合できるかは、図書館と図書館設計の大きなテーマだと考えている。

■データ	■計画時の収蔵能力
所在地：福島県南相馬市原町区	574,000冊
市の人口：約74,000人	+23,000タイトル
敷地面積：6,671.46 m ²	
延床面積：5,397.59 m ²	
規模：地上4階	
受賞	
・日本図書館協会 図書館建築賞	
・福島県建築文化賞 優秀賞	
・日本建築家協会 優秀建築選	
参考：	
図書館基本計画：菅原 峻	子ども：20,000冊
設計計画	
プロポーザル(2005年)入選	●視聴覚・新聞雑誌：23,000タイトル
基本設計 (2005年)	●日本の森 106,000冊
実施設計 (2006年)	(準開架)：
家具サンイン設計 (2007年)	●閉架書庫：300,000冊
設計監理 (2008~2009年)	●アカリチ：3,500冊
寺田大塚小林計画同人	●選書/奉仕：7,000冊
主任設計者 寺田 芳朗	

●震災を経て人口は、70900人から65300人に。
住民票統計



大きな準開架やBM書庫に特色のあるプログラムは早川司書が創っている。大震災を経て新任司書達が図書館を離れ、高橋司書達が資料世界を育てている。



●開架全体 : 180,834冊

成人 : 180,834冊

参考 : 300冊

地域行政 : 1,406冊

視聴覚 : 11,064冊

紙芝居 : 1,233冊

こども : 49,715冊

●地図 : 460

●雑誌 : 17,224冊

●その他 : 1,514冊

■2013年度の利用

●予約 12,998件／年

●レフレイ 441件／年

●貸し出し335,095冊／年

(全市人口 65,298人)

●市民1人 5.13冊／年

●登録率 29.0%

●本館利用数 79,282人／年

■本館貸出数の推移

●2009年 187,365冊

市民一人 4.44冊／年

●2010年 493,291冊(開館)

市民一人 8.46冊／年

●2011年 191,250冊(震災)

市民一人 2.97冊／年

●2013年 335,095冊

市民一人 5.13冊／年

S=1/500